

東御市地域公共交通計画策定に伴う進捗状況について

東御市公共交通活性化協議会では、来年度公共交通計画の策定に向け、市民のニーズに合った公共交通を構築していくため、本年6月～11月の間、市民アンケートを実施しました。集計結果は次のとおりです。なお、結果の割合や人数はクロス集計で計算されており、更に各項目の無回答は除外しているため、表記数値を単純計算しても、値にならない場合があります。

☆アンケート調査結果

	対象配布数	回収数（件）	回収率（％）	
高齢者（民生委員聞き取り）	4,816	2,383 世帯	73.1	実回答数は 3,643 人
小中高校生保護者	2,283	898	39.3	実回答数は 1,507 人
高校生	1,044	125	12.0	
市民	1,800	776	43.1	
定時定路線バス	400	24	—	
とうみレッツ号	300	104	—	
観光施設	440	152	—	

アンケート票数の検証（市民アンケート）

右の計算式から必要な標本数を求める。

N: 全体の人数（18歳以上の人口（令和2年国勢調査））	25,227
E: 許容できる誤差の範囲（一般的に3～5%）	5%
P: 母比率（必要標本数は50%で最大となる）	50%
K: 信頼度係数（信頼度を95%とする場合の係数 1.96）	1.96

$$\frac{N}{\left(\frac{E}{k}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(100-P)} + 1}$$

上記の条件をもとに必要な標本数を算出すると378件となり、回収数はこれを上回っており信頼性は確保できると考えられる。

1. 高齢者（独居、高齢者のみ世帯）の移動について（60代以上）

1-1 外出時の移動に不自由していますか。

区分	不自由している	不自由していない
免許を持っている	3% (65人)	97% (2,522人)
免許を返納した	31% (63人)	69% (143人)
最初から免許がない	23% (106人)	77% (346人)

考察：不自由しているのは免許を持っている人の3%にすぎないのに対して、免許を返納した人では31%、免許がない人では23%が不自由している。

1-2 不自由している人はデマンド交通を知っていますか。

知っている	知らない
98% (219人)	2% (5人)

考察：移動に不自由している方のうち、98%がデマンド交通を知っており、2%が知らない状況である。

1-3 不自由している人のデマンド交通の利用

利用している	利用していない
25% (55人)	75% (169人)

2021/12/21 全員協議会 産業経済部商工観光課

考察：独居、高齢者のみ世帯の人のうち、運転免許を持っているあるいは移動に不自由していない人は約95%であり、5%は遠方に出かけられずに困っている状況となる。不自由している方のうち、25%はデマンド交通を利用しているが、残る75%の方は、移動に不便している状況である。

方向性：移動に不便している169人は現在のデマンド交通の周知や運用形態を工夫することで、カバーできるものと考えられる。

2. 小中高生の通学実態

2-1 通学の手段は何ですか。

区分	鉄道	バス	徒歩	自転車	家族送迎	その他
小学生	- (0人)	5% (42人)	79% (655人)	0% (2人)	15% (122人)	1% (8人)
中学生	1% (4人)	2% (8人)	38% (162人)	28% (119人)	28% (119人)	3% (11人)
高校生	60% (150人)	2% (5人)	2% (5人)	7% (18人)	26% (66人)	2% (6人)

↓
 鉄道を利用する高校生の駅までの移動手段

区分	バス	徒歩	自転車	家族送迎	その他
高校生(鉄道利用)	- (0人)	20% (49人)	10% (26人)	29% (73人)	1% (2人)

考察：市内小中学生のうち、4%が定時定バス、スクールバスを利用しており、また、19%は家族送迎で通学を行っている。高校生は26%が家族送迎で通学しており、鉄道を利用している高校生の駅までの送迎も含めると、55%が家族に送迎をしてもらっている状況である。

2-2 通学にバスを利用しない理由は。(複数回答可)

	全体	家族送迎で通学
バスが走っていることを知らなかった	8% (106人)	8% (32人)
利用したい時間にバスが走っていない	18% (252人)	40% (151人)
バス停まで遠い	6% (86人)	12% (44人)
バス停までの道が危険	2% (26人)	6% (22人)
費用負担がかかる	14% (185人)	26% (97人)
他の移動手段の方が便利	13% (173人)	20% (76人)
バスを使うほどの距離ではない	49% (675人)	15% (58人)
近くにバス路線がない	13% (178人)	20% (77人)
その他(歩かせたい、徒歩と決まっている等)	10% (134人)	10% (37人)

考察：バス以外で通学している小中高生がバスを利用しない理由として、バスを使うほどの距離ではないことを挙げる人が49%で最も多い。家族送迎で通学している人に限定してみると、利用したい時間にバスが走っていないことを挙げる人が40%で最多である。

方向性：市内全児童・生徒のうち、平均で約25%の人が家族送迎(駅までの送迎を含む)であり、定時定路線バスの時間帯や運行ルートを見直すことで、利用増加が見込めるものとする。

3. 市民の日常における実態

3-1 外出の際に移動の自由度は。

常に不自由している	3% (24 人)
時々不自由している	4% (33 人)
不自由していない	92% (691 人)

3-2 外出の際の交通手段はなんですか。

(日常の外出で1・2番目に頻度が高い移動について)

区分	自家用車	公共交通	家族送迎	その他(徒歩・自転車など)
10代	50% (2 人)	- (0 人)	50% (2 人)	- (0 人)
20代	88% (56 人)	3% (2 人)	3% (2 人)	6% (4 人)
30代	92% (94 人)	1% (1 人)	1% (1 人)	6% (6 人)
40代	92% (184 人)	1% (1 人)	5% (9 人)	3% (5 人)
50代	95% (243 人)	- (0 人)	- (0 人)	4% (11 人)
60代	93% (265 人)	1% (2 人)	4% (10 人)	3% (8 人)
70代	92% (267 人)	1% (3 人)	5% (15 人)	1% (4 人)
80代以上	63% (75 人)	7% (8 人)	22% (26 人)	9% (11 人)

考察：日常における移動では全体の8%の人が不自由しており、ほとんどの方が自家用車や家族送迎で移動には不自由していないことがわかる。外出の際の交通手段としては、10代を除いて自家用車の割合が非常に高い。

3-3 家族を送迎している方は負担に感じていますか。

一般	負担に感じている	13% (77 人)
	負担に感じていない	87% (507 人)
子供保護者 (子供の通学の送迎)	負担に感じている	65% (248 人)
	負担に感じていない	35% (131 人)

方向性：市民の多くは移動にさほど不自由しておらず、自力で移動が困難な方は、家族等の送迎で移動はできているものと推測できる。しかし、送迎をしている家族のうち、負担に感じている方が市民アンケートでは13%、子供の通学で送迎をしている保護者は65%おり、この送迎されている方を公共交通へシフトさせることが必要と考えるが、現在の交通システムの運用形態を工夫することで、十分対応できるものと考えられる。

4. 市民のとうみレッツ号認知度

4-1 とうみレッツ号を知っていますか。

知っている	知らない
82% (586 人)	18% (131 人)

4-2 知っている人は利用したことはありますか。

利用している	今は利用していない(以前利用)	利用したことはない
3% (13 人)	8% (32 人)	89% (359 人)

4-3 利用していない理由は。(複数回答可)(上位3項目)

他に移動手段があるから	92% (445 人)
利用方法がわからない	11% (51 人)
時間が合わない	8% (40 人)
その他(土日祝日に利用できない、自分は利用できないと思っていた等)	15% (72 人)

方向性：市民の約8割はとうみレッツ号を知っているが、自家用車等の移動で利用しなくても不便はしていない。しかし、利用していない理由として、11%の方は利用方法がわからない、8%の方は時間が合わないことを挙げており、今後も分かりやすい周知や時間帯の見直しに努めなければならない。

総体的な方向とすると・・・

○地方特有の運転免許保持者が多く、一人一台の自動車保有の状況であり、免許を持ったまま歳を重ね、高齢になっても自力で移動ができる傾向がある。

○外出時の移動が「常に不自由している」あるいは「時々不自由している」と回答した人の割合は、高齢者アンケートでは7%、保護者アンケートでは4%（保護者自身の自由度）、高校生アンケートでは39%、市民アンケートでは8%となっており、多数の人は移動に「不自由していない」と答えている。

○現在稼働のデマンド交通は、自宅から目的地まで移動ができ、利便性が優れているサービスと言える。

○移動困難者について、デマンド交通の運行形態を工夫すること、また、通学に伴う定時定路線バスの見直しを行えば、新しい交通を導入しなくても、ニーズに対応ができると考えられる。

今後の予定

地域の意見を集約するため、市民アンケート結果及び相対的な方向性を材料に、地域懇談会を実施していきます。

1. 時期：令和4年1月下旬～2月
2. 内容：調査結果の報告及び市民からの意見聴取